

安城市

幼児教育・保育のガイドライン



安城市こども健康部保育課

2022年4月発行

2026年4月一部修正



安城市 幼児教育・保育のガイドライン

2022年4月 作成

2026年4月 一部修正

【主な改訂内容】

- 発行元の組織名を変更
 - 資料の内容を変更
-

「安城市幼児教育・保育のガイドライン」の 刊行によせて

本ガイドラインは、これからの安城市の幼児教育・保育の益々の充実と発展を願って刊行されたものです。

変化が急速で予測できない 20 年後、30 年後の世界で、安城市の子ども達には自己を存分に発揮して、楽しくたくましく賢く、健やかに生きていってほしいと願います。様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力や、複雑な問題に対し感性を働かせ多面的に見極め、知識を深めながら真理に迫って考えを深めていく力は、どのようにすれば育つのでしょうか。そのためにも、子どもの主体性や意欲が育つ環境や生活を用意し、「なぜだろう?」「面白い!」「もっとやりたい!」と園生活を楽しむ毎日を保障したいと思います。

日々の課題を「自分ごと」と捉え、友達と一緒に解決に向けて意見を出し合い、思考し判断し行動していく体験は、幼児期からもう始まっています。そしてその健やかな日々の基盤には、信頼できる保育者からの援助が欠かせません。

21 世紀を生きる子ども達のための「21 世紀型の保育」を、安城市の全ての幼児教育・保育施設の先生方と一緒に進めて参りましょう。

岡崎大学 岡崎短期大学 副学長 新井美保子

= 目次 =

1	ガイドラインの策定について	……	1
2	安城市幼児教育・保育ガイドラインの位置づけ	……	2
3	安城市の子どもを育むネットワーク	……	3
4	安城市の幼児教育・保育	……	4
	(1) 子どもの権利と人格の保障		
	(2) 教育・保育理念		
	(3) 保育園・幼稚園・認定こども園の社会的責任		
5	全体的な計画	……	5
	(1) 教育・保育の目標		
	(2) 教育・保育の方法		
	(3) 指導計画の作成・評価		
	(4) 幼児教育を行う施設として共有すべき事項		
	(5) 保育内容		
	(6) 健康及び安全		
	(7) 子育て支援		
	(8) 支援の必要な子への対応		
	(9) 小学校との連携		
6	保育者に求められる資質	……	13
	(1) 保育者の資質		
	(2) 保育者の資質向上		



1. ガイドラインの策定について

安城市では、令和2年3月に第2期「安城市子ども・子育て支援事業計画」（令和2年度～令和6年度）を策定し、「幸せと未来をつなぐ子育てのまち・安城」を基本理念として、市民一人ひとりが子育てを通じて幸せを実感できるまちづくりを目指し、各種子育て施策を展開しています。

本市の人口は令和4年3月1日現在、189,159人となり、全国的に少子高齢化が進み、人口も減少傾向にあり、本市においても令和2年4月をピークに微減しています。その一方で、世帯の状況を見ると核家族化の進行や、共働き家庭の増加に伴い、保育を必要とする家庭が増えています。

このような状況において、子育て世代が育児と仕事の両立を図ることができるよう、幼稚園を認定こども園へ移行したり、民間園を誘致したりする等、積極的に保育施設の整備に取り組むとともに、保育人材を確保し、待機児童の解消に努めているところです。また、保育ニーズも多様化し、家庭環境も変化していることから、保育所等に求められる役割も大きくなっています。

国においては「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時改定(改訂)され、平成30年4月に施行されました。子どもを主体として尊重するとともに、その最善の利益を考慮し、健やかな育ちを促すために、「質」を大切にしたい幼児教育・保育を進めることが求められました。改定(改訂)のポイントは、①乳児・1歳以上3歳未満児保育の充実 ②幼児教育について育みたい資質・能力の明確化 ③小学校教育との円滑な接続(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化) ④環境を通して行う幼児教育・保育の実施とそのための計画の作成、評価、改善 ⑤危機体制作り ⑥子育て支援の充実 ⑦質の向上のための研修体系作りと考えます。これらの実施のため、令和元年度、全園に配布しました安城市の「全体的な計画」を継承するとともに、さらに具体化した「**安城市幼児教育・保育のガイドライン**」を策定しました。

公立、私立に関わらず、子どもを中心として、保育に関わる全ての職員が専門職としての一定の認識をもち、相互に連携・協力するために、地域でネットワーク作りを行う「あいあい会」を実施するとともに、この「**安城市幼児教育・保育のガイドライン**」を共有し、安城市全体で幼児教育・保育の質の向上に努めてまいります。

2. 「安城市幼児教育・保育ガイドライン」の位置づけ

児童憲章
児童の権利に関する条約

保育園	幼稚園	幼保連携型認定こども園
<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 ・保育所保育指針 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法 ・学校教育法 ・学校教育法施行規則 ・幼稚園設置基準 ・幼稚園教育要領 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援法 ・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供に関する法律 ・教育基本法 ・学校教育法 ・児童福祉法 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領



<p>安城市幼児教育・保育ガイドライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安城市の教育目標 ・全体的な計画
--



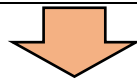
市の実態
保護者の願い
社会的要求



園の 保育目標	園の 教育目標	園の 教育及び保育目標
---------	---------	-------------



園の実態
保護者の願い
地域の実態



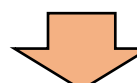
全体的な計画・教育課程
年間指導計画
月・週指導計画
日案・細案
保育実践・記録・評価



子どもの姿
・願う発達
・個と集団の育ち



反省と評価
・子どもの実態
・指導方法
・ねらいの達成度



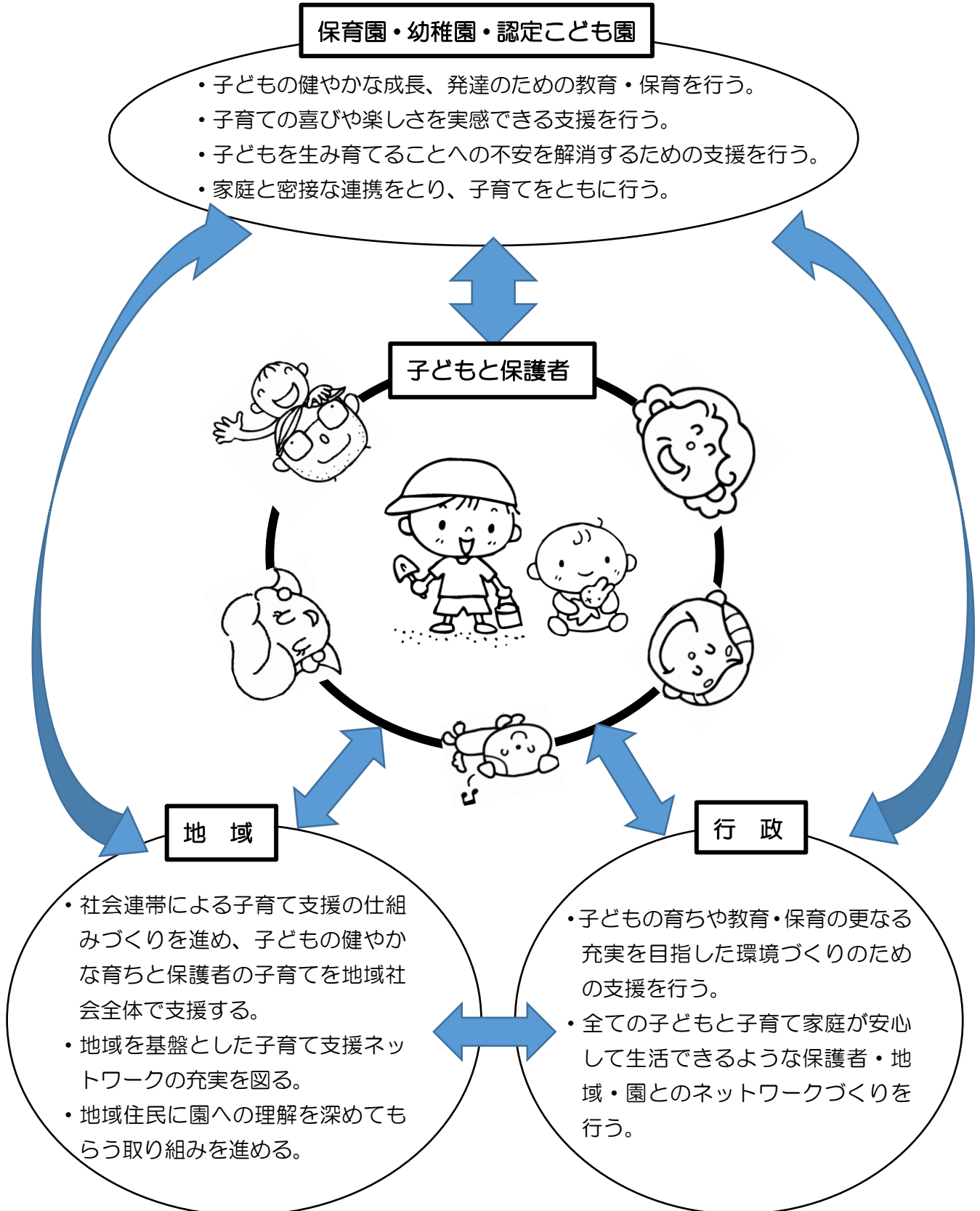
保育所児童保育要録	幼稚園幼児指導要録	認定こども園園児指導要録
-----------	-----------	--------------



小学校へ送付

3. 安城市の子どもを育むネットワーク

安城市では子どもを中心に保護者の子育てを支えながら、地域全体で子育てを支援する保育を目指します。



4. 安城市の幼児教育・保育

(1) 子どもの権利と人格の保障

すべての子どもたちは、大人と同じように権利をもっています。すべての子どもたちが心身ともに健康に、自分らしく育つための権利であり、子どもの権利を守ることは大人の責務であり、義務でもあります。

保育者は、子ども自身の特性や状況を踏まえ、自己肯定感を育て、子どもに寄り添う保育を展開することが必要です。教育・保育が子どもの人権を守りながら展開されるよう、意識することが大切です。



生きる権利

病気やけがをしたら治療を受けられ、防げる病気などで命を奪われないこと。いじめや差別を受けないこと。



育つ権利

教育を受けること。また休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つこと。



守られる権利

ひどい言葉や暴力などから守られ、困ったときは相談できるところがあること。障害のある子どもや少数民族の子どもは特に守られること。



参加する権利

自分の意見を自由に言ったり、集まってグループを作ったりして自由な活動ができること。

unicef 「子どもの権利条約」4つの原則

(2) 教育・保育理念

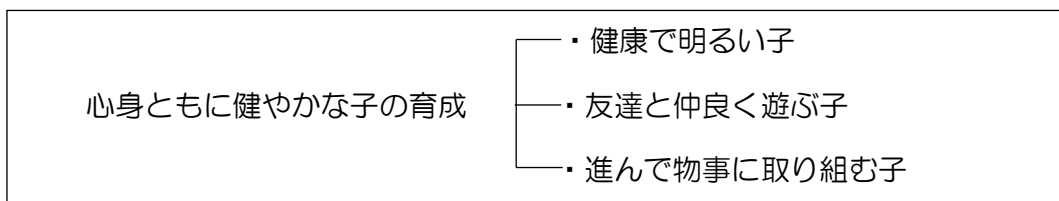
入所する乳幼児の最善の利益を考慮し、その健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい教育・保育をします。

(3) 保育園・幼稚園・認定こども園の社会的責任

- 子どもの人権に十分配慮し、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行う。
- 地域社会との交流や連携を図り、教育・保育の内容を適切に説明するよう努める。
- 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情解決を図るよう努める。
- 地域の子育て支援の拠点としての役割に努める。

5. 全体的な計画

(1) 教育・保育の目標



保育園・幼稚園・認定こども園は、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の趣旨を十分に理解し、乳幼児期の特性を踏まえて、『生きる力の基礎を培う』『豊かな人間性を育成する』ための教育の場となります。安城市では、就学前教育として、保育園と幼稚園、認定こども園が共通の全体的な計画の下、子どもたちの健やかな成長のために環境を通して行う保育を基本とし、遊びを中心に子どもの主体性を育てる保育を進めることとします。

(2) 教育・保育の方法

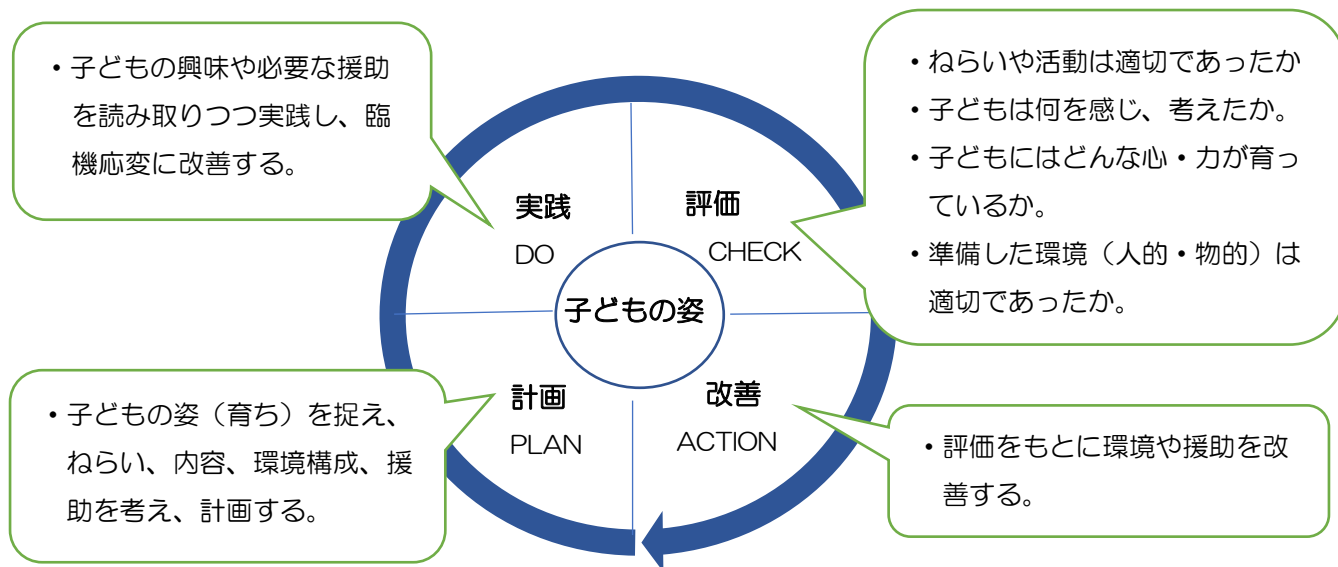
- ・子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子ども主体の思いや願いを受け止めること。
- ・健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること。
- ・一人一人の発達過程に応じて保育し、子どもの個人差に十分配慮すること。
- ・子ども相互の関係作りや尊重する心を大切に、集団における活動を効果のあるものにするよう援助すること。
- ・乳幼児期にふさわしい体験が得られるように生活や遊びを通して総合的に保育すること。

(3) 指導計画の作成・評価

- ・全体的な計画に基づき、具体的な保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながらより具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成する。
- ・指導計画においては、園の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定する。また、具体的なねらいが達成されるよう、子どもの生活する姿や発想を大切に適切な環境を構成し、子どもが主体的に活動できるようにする。

- ・園は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育者の自己評価を踏まえ、保育の内容について評価を行い、これに基づいて改善を行う。

－ 評価の基本的な考え方（PDCA サイクル）－



（４）幼児教育を行う施設として共有すべき事項

① 育みたい資質・能力

- ・豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする『知識及び技能の基礎』
- ・気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする『思考力、判断力、表現力等の基礎』
- ・心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする『学びに向かう力、人間性等』

② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）は到達すべき目標ではなく、幼児の発達していく方向を表している。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達に応じてこれらの姿が育っていくのであり、全ての幼児に同じように見られるものではない。これらは指導を行う際に考慮するものである。

【健康な心と体】

園の生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

【自立心】

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。

【協同性】

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感を持ってやり遂げるようになる。

【道徳性・規範意識の芽生え】

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性がわかり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

【社会生活との関わり】

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

【思考力の芽生え】

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

【自然との関わり・生命尊重】

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを意識するようになる。

【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

【言葉による伝え合い】

保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

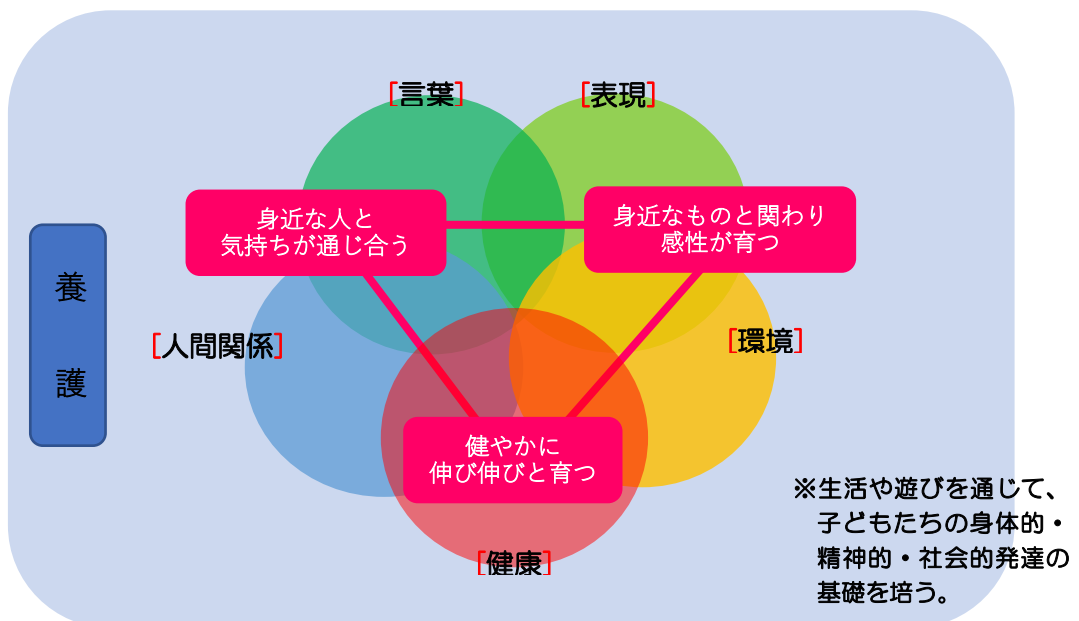
【豊かな感性と表現】

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

(5) 保育内容

① 乳児

- ・乳児は、温かく丁寧な保育、させるのではなく受容的で応答的な保育が大切である。保育者が一人一人の子ども心の基地になるよう、常に「あなたのことを大事に思っているよ」という温かさをもって子どもと接し、子どもが安心して過ごせるようにする。



出典：厚生労働省「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」（2016年12月21日）

② 1歳以上3歳未満児の保育

- ・「自分でしようとする」時期に入る。「自分で」という思いをくみ取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりしていくようにする。子どもは自分の気持ちを受け止めてもらう安心感や、やってみたくて頑張ったことがうまくいかなくても、受け入れられるということを通して、自己肯定感など様々な力を身に付けていく。

③ 3歳以上児の保育

- ・この時期の保育は、個の成長と集団としての活動の充実が図られるように、発達の特徴を踏まえ「健康、人間関係、環境、言葉、表現」という5つの領域に示された保育のねらい及び内容について、子どもたちの自発的な活動である遊びや生活の中で養護と教育を一体的に展開していく。
- ・卒園後の学びへの接続に向けて、5歳児後半の幼児の主体的で協働的な活動の充実をより意識的に図っていく事が大切である。

(6) 健康及び安全

① 子どもの健康支援

- ・子どもの健康状態・発育・発達状態について、定期的・継続的に把握する。疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合は嘱託医と相談するなど適切な対応を図る。虐待が疑われる場合は、通告し、適切な対応を図る。
- ・保健計画を全体的な計画に基づいて作成し、一人一人の子どもの健康の保持・増進に努め、定期的に健康診断を行い、その結果を日常生活に活用できるようにする。
- ・体調不良や傷害が発生した場合は、適切な処置を行う。感染症や疾病の発生予防に努め、園の対応方法について関係機関の協力を得ておく。
- ・子どものアレルギーの状況について、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行う。
- ・医務室等の環境を整え、救急用の薬品を常備し、全職員が対応できるようにしておく。

② 食育の推進

- ・「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とし、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待する。また、食育計画を全体的な計画に基づいて作成し、その評価、改善に努める。
- ・食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、食に関わる保育環境に配慮する。

- 食に関する取組を進め、地域の関係機関との連携を図り、協力が得られるよう努める。
- 体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態に応じ、嘱託医の指示や協力の下に適切に対応する。

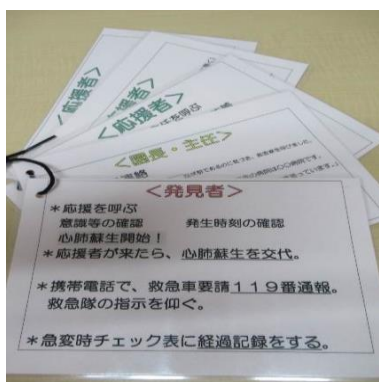
③ 環境及び衛生・安全管理

- 施設の温度、湿度などの環境を適切な状態に保持し、設備・用具等の衛生管理に努める。
- 事故防止のために安全点検に努め、対策のために全職員の共通理解や体制をつくる。特に睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中に重大事故が発生しやすいことを踏まえ、環境の配慮や指導の工夫を行う。
- 保育中の事故の発生に備え、定期的に安全点検を行い、安全環境の整備に努めるなど不測の事態に備えて対応を行う。

④ 災害の備え

保育に関わる職員は、常に危機管理意識をもって日々の保育活動を点検し、子どもの健やかな育ちを支援する安全な環境を整備していく責務があります。

- 災害の発生に備え、マニュアルを作成し、定期的に必要な安全点検や整備、避難訓練などの対応を図る。また、災害発生時に、連絡体制や引渡し方法等について確認をしておく。
- 地域の関係機関等との連携を図り、必要な協力が得られるよう努める。避難訓練については、地域の関係機関や保護者との連携の下に行うなど工夫する。



心肺蘇生・救急搬送訓練の様子

【災害の備えに関するチェックリスト】

1	事故や災害に備え、適切に対応するマニュアルが作成され、全職員に周知されている。
2	防災計画等を策定し、避難訓練、消火訓練を月1回以上実施している。
3	施設の安全点検や消防設備、火気使用設備の整備及び点検を定期的に行っている。
4	消火器は落下物や転倒しない場所に設置し、設置場所と使用方法について全職員が周知している。
5	施設、設備、遊具、玩具、用具、園庭等について点検日や点検者を定めて、安全点検をしている。
6	避難経路の保持のために整理整頓、転倒防止や落下防止の措置など安全な環境の整備がされている。
7	引き渡し訓練を通して、保護者との連携を図り、災害時における連絡体制や引き渡し方法を確認している。
8	地域の関係機関との連絡体制が整っている。
9	避難訓練は様々な状況を想定して行っている。
10	食物アレルギーのある子どもや障害のある子ども等、特に配慮を要する子どもへの対応について全職員が対応できる。

(7) 子育て支援

① 園を利用している保護者に対する子育て支援

保護者に対する子育て支援を行う際には、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重します。また、園の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気づき子育ての喜びを感じられるように努めます。

- 地域の関係機関等との連携及び協働を図り、園全体の体制構築に努める。また、保護者や子どものプライバシーを保護し、秘密を保持する。
- 保護者との相互理解を図るように努め、保育の活動に対する保護者の積極的な参加を促す。
- 保護者の就労と子育ての両立等を支援するため、病児保育事業など多様な事業を実施する場合は、子どもの生活の連続性を考慮する。また、子どもに障害や発達上の課題が見られる場合には、関係機関と連携・協力を図りつつ、保護者に対する個別の支援を行うよう努める。特別な配慮を必要とする家庭の場合は、個別の支援を行うよう努める。

- ・保護者に育児不安等が見られる場合は、個別の支援を行うよう努める。また、不適切な養育等が疑われる場合は、関係機関と連携し、適切な対応を図る。虐待が疑われる場合は、速やかに通告し、適切な対応を図る。

② 地域の保護者等に対する子育て支援

- ・地域の実情を踏まえ、その地域の保護者等に対して、保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行うよう努める。また、地域の子どもに対する一時預かり事業などの活動を行う際には、柔軟に活動を展開できるようにする。
- ・子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図り、地域の子どもを巡る諸課題に対し、関係機関等と連携、協力して取り組むよう努める。

(8) 支援の必要な子への対応

- ・園では、障害のあるなしという視点ではなく、全ての子どもについて、その子に合った関わりをするという「保育の原点」に立ち、身近な地域で暮らせるよう障害のある子を受け入れ、保護者を支援するという意識をもつ。
- ・障害のある子どもと健常な子どもが共に生活をし、時間と空間を共有する中、互いの姿を認め合い、関わり方を知るなど、共に育ち合う教育・保育を行う。
- ・支援の必要な子どもの発達過程や心身の状態を把握し、理解しながら一人一人のニーズに合わせて適切な配慮や援助を行い、子どもが生きていくために必要な力を育てる。
- ・必要に応じて専門家による指導や援助を受けるなど、他機関と連携した支援を充実させ、長期的視点で子どもへの教育的支援を行うために個別支援計画を作成し活用する。
- ・切れ目のないサポートのためにシステムの構築を行い、関係機関との連携・協力を行う。

(9) 小学校との連携

- ・園での保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。
- ・園での保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教師との意見交換や合同の研修の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、小学校教育との円滑な接続を図るよう努める。
- ・子どもに関する情報共有に関して、子どもの就学に際し、市の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が小学校へ送付されるようにする。

6. 保育者に求められる資質

(1) 保育者の資質

保育者一人一人は子どもを心から大切に思い、日頃から子どもと心が通い合うように努め、一人一人の子どもが安定、安心して生活できるように子どもを支えます。そして、子どもの最善の利益を第一に考えて適当な環境が等しく確保されることを目指します。

また、子どもを取り巻く環境が多様化、複雑化している中、様々な課題を抱えた子どもや保護者に寄り添い、保護者自身が子育てに自信をもち、喜びを感じることができるよう支えていきます。

- ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を十分に理解し、日々の実践に活かし、向上心を持って教育・保育に取り組む。
- ・子どもと関わることを喜び一緒に楽しむことができ、積極的に教育・保育に従事する。
- ・乳幼児の発達過程を理解し、一人一人の成長・発達に合わせた援助をする。
- ・子ども主体に考え、子どもの思いを受け止めるようにする。
- ・保護者の気持ちに寄り添い、相互の信頼関係を基本に保護者を支援する。
- ・保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるように努める。
- ・教育・保育の仕事に誇りと責任感をもち、遂行する。
- ・職員間のコミュニケーションを円滑にして、職場内での協同性、共通理解を高める。

(2) 保育者の資質向上

保育者は子どもと保護者を支えるために、職務への責任感をもち、専門職として技術や知識を深めることに努め、園全体の保育の質の向上を図っていきます。

- ・自己評価に基づいて自分自身の課題を確認し、研修や自己研鑽により自身の保育の専門性を高める努力をする。
- ・各園においては、教育・保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、職位、職務内容を踏まえた体系的な研修計画のもとで研修を実施する。
- ・外部研修で得た知識・技能を園の職員と共有し、園全体での質の向上に努める。
- ・市内全体の教育・保育の向上につなげるための公立・民間合同会議、研修の実施、連携を努めて行う。

【保育士・教諭に求められる重要な資質・能力】

1	<p>子どもを理解する力と総合的に指導する力</p> <p>あなたは、子どもの発達過程を内面から理解し、生活の中で示す姿を共感的に受容するとともに、総合的な発達を促すために主体性を引き出し、生活や遊びを通じた応答的保育ができていますか？</p>
2	<p>具体的に保育を構成する力</p> <p>あなたは、一人一人の発達段階と個別の状況に応じて保育のねらいを明確にし、環境を構成するとともに、多様な生活体験、自然体験、交流保育などを計画的かつ具体的に取り入れた保育計画を構成し実践できていますか？</p>
3	<p>職員の一員としての協働性と得意分野の伸長</p> <p>あなたは、職員間でコミュニケーションを図り、協働関係を構築し、園全体として保育活動を展開していこうとする姿勢をもっていますか？</p> <p>また、保育を総合的に展開する基本的な力を身に付けた上に、自分の得意分野を伸長する努力をしていますか？</p>
4	<p>保護者及び地域社会との関係を構築する力</p> <p>あなたは、地域に開かれた園として保護者や地域のさまざまな情報を捉え、これを保育活動に生かして、園・家庭・地域社会の三者の連携を深めていくようにしていますか？</p>
5	<p>小学校と他園との連携を推進する力</p> <p>アプローチ期の子どもたちが円滑に小学校に繋がるように、園と小学校が連携し子どもの共通理解を図っていますか？</p> <p>また、他園との相互交流や合同研修などで得た研修成果を踏まえた能力が発揮できていますか？</p>
6	<p>人権に対して理解・対応する力</p> <p>あなたは、人権及び人権問題について正しい理解と認識をもち、子どもが互いに尊重し、社会の基本的ルールに気づき、規範意識の伴った行動がとれるような素地を身に付けるように対応していますか？</p>
7	<p>特別な合理的配慮を要する子どもに対応する力</p> <p>あなたは、支援を必要とする子の障害の種類や程度、国籍による文化の違いなど、個別の対応に関して必要な専門的な知識や技術を習得する努力をしていますか？</p>
8	<p>低年齢児保育は保育者の全人格をもって接する</p> <p>あなたは、子どもを心から「可愛い」と愛をもって接していますか？</p> <p>保育者の心の種ともいえる全人格は、人的環境として子どもの発達に影響することを心に留めて保育していますか？</p>

資料 「年齢別 育ちのねらい」

育みたい 資質・能力	(乳児) 3つの視点	乳児	5 領 域	1歳児 (満1歳より)	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	幼児期の終わりまでに 育ってほしい10の姿	
知識 及び 技能 の 基礎	健 や か に 伸 び 伸 び と 育 つ	・聞く、見る、触れるなど を通して、伸び伸びと体を 動かし、はう、歩くなどの 運動をしようとする。	健康	・安全で活動しやすい環境の 中で、自由に体を動かすこと を楽しむ。	・保育者と一緒に全身や手や 指を使う遊びを楽しむ。 ・健康、安全な生活に必要な 習慣に気づき、自分でしてみ ようとする気持ちをもつ。	・園生活の仕方が分かり、簡 単な身の回りの始末を自分で しようとする。 ・好きな遊びの中で様々な動 きを遊びに取り入れて、体を 動かす楽しさを知る。	・健康的な生活に必要な習慣 や態度が分かり、できること は自分でしようとする。 ・身近な遊具に親しみ、体を 動かすことに興味をもち、遊 ぶ。	・健康、安全な生活に必要な 習慣や態度を身に付け、見通 しをもって行動する。 ・様々な遊具や用具を使い、 複雑な運動や集団的な遊びを 通して体を動かして遊ぶ。	ア健康な心と体	
			人間 関係	・安心できる保育者との信頼 関係の中で、人と関わること を喜ぶ。	・保育者が仲立ちすることによ って、友達と関わって遊ぶこ とを楽しむ。 ・生活や遊びの中で順番・交 替などがあることを知る。	・保育者の仲立ちの下、友達 に思いを伝えて遊ぶ楽しさを 味わう。 ・保育者や友達との生活を楽 しみながら、きまりがあるこ とを知り、守ろうとする。	・友達と自分との違いに気付 きながら、共に遊ぶ楽しさを 味わう。 ・保育者や友達と関わって遊 ぶ中で、遊びのルールがある ことを知り、みんなで守って 遊ぼうとする。	・友達とのつながりを深め、 工夫したり協力したりして物 事をやり遂げる充実感を味わ う。 ・体験を重ねながらきまりの 必要性に気づき、自分で考え て行動する。	イ自立心 ウ協同性	
			環 境	・安心できる保育者と関わ る中で機嫌よく過ごす。 ・体の動きや表情、発声等 により、保育者等と気持ち を通わせようとする。	・身の回りの様々な物に触れ て遊び、外界に対する興味や 関心をもつ。	・身の回りの様々な物を見たり 触れたり保育者から話を聞 いたりして、興味や関心を広 げる。	・身近な環境に親しみ、興味 関心をもつ。 ・身近な社会事象に親しみ、 模倣して遊ぶことを楽しむ。	・身近な環境や動植物に触れ る中で興味や関心をもち、取 り入れて遊ぼうとする。	・身近な環境に好奇心や探究 心をもって関わり、物の性質 や数、量、文字などへの関心 を深める。	エ道徳性・規範意識の 芽生え オ社会生活との関わり カ思考力の芽生え
			言 葉	・応答的な関わりや話しかけ により、保育者に自分の気持 ちを伝えようとし、言葉を使 おうとする。	・絵本や物語等に親しみとど ともに、保育者や友達と言葉の やり取りを楽しむ。	・自分の気持ちを相手に伝え ようとしたり、話を聞こうと したりする。 ・日常生活に必要な言葉が分 かるようになる。	・自分の思いを話したり友達 の話を聞いたりしながら思い を伝え合う喜びを味わう。	・自分の言葉で表現したり、 話し合ったりして保育者や友 達と心を通わせる。	キ自然との関わり・ 生命尊重 ク数量・図形・文字等 への関心・感覚 ケ言葉による伝え合い	
思考力・ 判断力・ 表現力等 の 基礎	身 近 な 人 と 気 持 ち が 通 じ 合 う	・聞く、見る、触れる、探 索するなど、身近な環境に 自分から関わろうとする。 ・音、匂い、感触、味など の諸感覚による認識が豊か になり、表情や手足、体の 動き等で表現する。	環 境	・生活や遊びの中でイメージ や感性を豊かにし、感じたこ とや考えたことなどを、自分 なりに表現しようとする。	・生活の中でイメージを豊か にし、感じたことや考えたこ とを自分なりに表現して楽し む。	・様々な出来事に触れる中で イメージを豊かにし、いろい ろな方法で表現する楽しさを 味わう。	・自分なりに表現することを 楽しむ中で、豊かな感性や表 現する力を養い、創造性を豊 かにする。	コ豊かな感性と表現		
表 現			・身体 の諸感覚の経験を豊かにし、 様々な感覚を楽しむ。	・生活の中でイメージを豊かにし、 感じたことや考えたことを自分 なりに表現して楽しむ。	・様々な出来事に触れる中で イメージを豊かにし、いろい ろな方法で表現する楽しさを 味わう。	・自分なりに表現することを 楽しむ中で、豊かな感性や表 現する力を養い、創造性を豊 かにする。	コ豊かな感性と表現			
学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 等	身 近 な も の と 関 わ り 感 性 が 育 つ	・聞く、見る、触れる、探 索するなど、身近な環境に 自分から関わろうとする。 ・音、匂い、感触、味など の諸感覚による認識が豊か になり、表情や手足、体の 動き等で表現する。	環 境	・生活や遊びの中でイメージ や感性を豊かにし、感じたこ とや考えたことなどを、自分 なりに表現しようとする。	・生活の中でイメージを豊か にし、感じたことや考えたこ とを自分なりに表現して楽し む。	・様々な出来事に触れる中で イメージを豊かにし、いろい ろな方法で表現する楽しさを 味わう。	・自分なりに表現することを 楽しむ中で、豊かな感性や表 現する力を養い、創造性を豊 かにする。	コ豊かな感性と表現		
表 現			・身体 の諸感覚の経験を豊かにし、 様々な感覚を楽しむ。	・生活の中でイメージを豊かにし、 感じたことや考えたことを自分 なりに表現して楽しむ。	・様々な出来事に触れる中で イメージを豊かにし、いろい ろな方法で表現する楽しさを 味わう。	・自分なりに表現することを 楽しむ中で、豊かな感性や表 現する力を養い、創造性を豊 かにする。	コ豊かな感性と表現			

低年齢児

指導計画

1期 0歳児 (産休明け～3か月未満)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌のよい時は、手足を盛んに動かしたり、人の顔を見て声を出したりほほえんだりする。 ・おむつが濡れたり、お腹がすいたり、眠くなったりした時など、不快な時は泣いて知らせる。 ・睡眠と目覚めを1日のうちに何回も繰り返す。 ・うつぶせにすると、頭を少し持ち上げる。 ・目の前の物をじっと見つめたり、動く物をじっと追視したりする。 ・手を口に持っていき、指を口に入れる。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかに世話をし、毎日の生活を安定して、安心して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心地よい環境の下で、聞く、見る、触れるなどの感覚を楽しむ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの欲求を満たし、安心できる保育者が愛情豊かに関わることを通して、情緒の安定を図り、気持ちよく生活できるようにする。 ・清潔で安全な環境を整える。 ・授乳は抱いてほほえみかけたり、優しく言葉をかけたりしながら、ゆったりとした気持ちで行う。 ・一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して眠れるように環境を整える。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもからの働きかけを踏まえた応答的な触れ合いや言葉がけによって欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。 ・抱かれたり、屈伸、腹ばいなど体位を変えてもらったりして機嫌よく遊ぶ。 ・優しく言葉をかけてもらいながら、聞いたり、見たり、触れたりできる玩具などで遊びを楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながら一人一人の子どもの状態に応じた保育をする。 ・授乳は必ず抱いて、子どもの楽な姿勢で行う。一人一人の子どもの哺乳量を考慮して授乳し、哺乳後は必ず排気(げっぷ)させ、吐乳を防ぐ。 ・おむつの当て方や衣服の着せ方、寝具の調節、保育室の温度や湿度の調整などをきめ細かく行いながら、安全の確保に心がける。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 予防に努める。 ・目覚めている時はできるだけ抱き上げたり、優しい笑顔で見つめたり、静かな声で名前を呼んだりし、一人一人に合わせた表情や言葉、動きで相手をする。あまり強く体を揺すらないようにし、首が据わっていない子どもを抱く時には、必ず保育者の手で頭を支えるようにする。 ・子どもの視線、視野を考慮して、吊るし玩具を用意したり、ベッドの柵に触れると音の出る玩具を用意したりする。

2期 0歳児 (3か月～6か月未満)

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳、睡眠、遊びの生活のリズムのが徐々に安定してくる。 ・不快を感じると盛んに泣いて訴える。 ・首がしっかり据わり、寝返りをする。 ・目の前の物をつかんだりしゃぶったりなど、手足の動きが活発になる。 ・あやしたり話しかけたりすると、声を出して笑ったり、「アー」「ウー」などの喃語を発したりする。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかに世話をし、毎日の生活を安定して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境の下で、寝返りや腹ばいなど体を動かしたり、玩具に触れたりして遊ぶ。 ・あやされたり、ゆったり話しかけられたりする中で、喃語を発する。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心してよく眠れるように環境を整える。 ・ほほえみかけたり、語りかけたり、抱いたりして、情緒の安定を図る。 ・ミルクを十分飲ませたり、おむつを交換したりして、気持ちよく過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立位で抱かれたり、寝返りや腹ばいなど体位を変えてもらったりして遊びを楽しむ。 ・触れ合い遊びなど、人と関わる遊びを楽しむ。 ・あやし遊びや語りかけに機嫌よく応じ、喃語の発声を楽しむ。 ・動きを見たり、たたいたり、つかんだり、握ったりできるような玩具に触れて遊ぶ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながら保育する。 ・豊かな語りかけやほほえみかけ、あやし遊びで保育者との結び付きを深め、愛着関係を築いていく。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 予防に努める。 ・子どもの体調や天候を見ながら散歩に出かけ、外気に触れる機会をつくる。 ・動きを目で追ったり、手に持ったり、口で確かめたりして遊べる玩具を用意する。 ・心地よい体位で遊べるようにしながら、寝返りや腹ばいの機会をつくる。 ・子どもからの発声や喃語には、相づちを打ったり、ほほえみかけたり、気持ちを汲み取った言葉をかけたりする。

3期 0歳児 (6か月～9か月未満)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りや警戒心、甘えなどのいろいろな感情が出てきて、嫌な時は強く泣くなどする。 ・あやされるとよく笑うようになり、大好きな大人の後追いをする。 ・離乳食に慣れ、ドロドロ状の物から舌でつぶせる硬さの物を食べるようになる。 ・食べることを喜んで、自分から食べ物に手を伸ばそうとする。 ・おむつ交換時に、手足を動かしたり寝返りをしたりしようとする。 ・腹ばいの姿勢で、旋回の動きが活発になる。 ・口の中に玩具や様々な物を入れ、なめたり噛んだりする。 ・興味のある玩具に手を伸ばし引っ張る、たたく、押す、投げるなど手や指を使う遊びをするようになる。 ・「ばいばい」「ねんね」など言葉と仕草とが結びついてくる。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理的欲求を満たしてもらいながら安心して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境の中ではったり、座ったりすることを楽しむ。 ・手に触れる物をなめたり、振ったり、入れたり、出したりなど手指・四肢を動かして遊べるようにする。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して眠れるように環境を整える。 ・抱っこしたり、優しく声をかけたりしながら、ゆったりとした雰囲気の中で、保育者の愛情豊かな受容により気持ちのよい生活ができるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食を喜んで食べる。 ・睡眠が2回寝になり規則的になる。 ・体調のよい時は戸外に出て、外気浴を楽しむ。 ・腹ばいやお座りなどの姿勢で機嫌よく遊ぶ。 ・体を支えられて、膝の上でピョンピョン跳ねて遊ぶ。 ・つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊ぶ。 ・リズムカルで簡単な歌や手遊びなどの触れ合い遊びを喜ぶ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながら保育する。 ・子どもの甘えや欲求を敏感に感じ、抱っこしたりあやしたりして受容し、信頼関係を築く。 ・離乳食は一人一人の様子や家庭での進み具合を踏まえ、量や硬さを考慮し、いろいろな食品の味に慣れるようにする。 ・手で持って食べられるお菓子など、少しずつ自分で食べる経験もさせていながら、食べる意欲を育む。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 予防に努める。 ・玩具は清潔を心がけ、口に入れても安全かチェックしておく。 ・寝返り、腹ばいからお座りへと姿勢を変えたり、はいはいなどで体を動かしたりすることができる環境を整える。 ・「あーあ」「うーう」などの喃語に応えたり、優しく語りかけたりする。 ・リズムカルで簡単な歌を歌ったり、手遊びをしたりして、触れ合い遊びを楽しめるようにする。

4期 0歳児 (9か月～1歳未満)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育者を独占したがる。 ・様々な味の離乳食を食べるが、少しずつ好き嫌いが出てきて、嫌な物は口から出そうとする。 ・自分で食べる意欲が出てきて、手でつかんで食べようとしたり、コップを持って飲もうとしたりする。 ・おむつ交換を嫌がって動こうとする。 ・睡眠時間がほぼ決まってくる。 ・はいはいをしたり、つかまり立ちから伝い歩きをしたりする。 ・小さな物をつまんだり、手と手を合わせてたたいたり、容器から物を引っ張り出したりするなど指先の機能が発達してくる。 ・「いないいないばあ」「アワワワ」「ばいばい」などを喜んだり、真似をしたりする。 ・興味のあるものを見付けると、指を差したり、声を出したりして知らせる。
<p>ねらい</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理的欲求を満たしてもらいながら安心して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳を進めていく中で様々な味や食材に慣れ、食べることに意欲をもつ。 ・一人歩きに向けて、はいはいやつかまり立ち、伝い歩きを十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に触れ合い遊びや手指を使った遊びを楽しみ、応答的な関わりを深める。
<p>内容</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して眠れるように環境を整える。 ・特定の保育者との安定した関係を基盤にして、自分の思いを出し、受け止めてもらう喜びを味わえるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な味や食材を知り、楽しく食べる。 ・手づかみで食べることに意欲をもつ。 ・はいはいやつかまり立ち、伝い歩きなど発達に合った動きを十分楽しむ。 ・興味ある玩具を通して、手指を使った遊びを楽しむ。 ・保育者と一緒に身近な物の絵本を見る。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながらか保育する。 ・人見知りをして泣いたり、表情を硬くしたりする時は、安心できる保育者が関わり、甘えたい気持ちを十分満たすことができるようにする。 ・一人一人の状態に合わせて離乳を進め、様々な味や形態の食べ物を、楽しくおいしく食べることができるようにする。必要に応じて、咀嚼の発達に合わせて調理を工夫し、次第に幼児食に移行する。 ・おむつ交換の時は清潔になることの心地よさが感じられるような言葉をかける。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 予防に努める。 ・小さな物を口に入れないように、注意して見守る。 ・運動面で子どもの活動意欲を助長しながら、一人一人の興味や発達に合わせて、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなどが十分にできるように、安全で活動しやすい場を整える。 ・触れたり、たたいたり、出したり入れたりができるような(手作り)玩具を用意し、環境を整える。 ・子どもの指差しや発声に耳を傾け、気持ちに共感しながら、物の名前を知らせたり、動作と言葉を結び付けて語りかけたりして、発語を促す。 ・保育者の動きの真似や歌に合わせたスキンシップのある遊びなどを取り入れ、子どもと目を合わせ、楽しいやり取りをする。

5期 0歳児 (1歳～1歳3か月未満)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・つかまり立ちから伝い歩き、一人歩きを始める。 ・自分の思い通りにならないと、顔を伏せたり、のけぞったりして表現する。 ・保育者が歌うと体を揺らし、リズムをとって楽しむ。 ・離乳食から幼児食へ移行し、食べ物の好みが出てくる。 ・スプーンに興味をもっているが、手づかみでこぼしながらも自分で食べる。 ・2回寝から1回寝になり、睡眠時間がある程度一定になってくる。 ・興味や関心のある物を指差ししたり、要求を身振りや表現で知らせたりする。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者との信頼関係の下、毎日の生活を安定して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の子どもと一緒にいることを喜んだり、保育者との遊びを楽しんだりする中で、指差しや片言で自分の思いを出すようにする。 ・身の回りの人や物に興味や関心をもち、見たり、聞いたり、触れたりして、探索活動を楽しむ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活のリズムに応じて、安定した生活のリズムを身に付けていく。 ・保育者に要求や欲求を優しく受け止めてもらいながら、安心して過ごす。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした雰囲気の中で、スプーンを持ったり、手づかみをしたりしながら、自分で食べることを楽しむ。 ・はいはい、伝い歩き、ヨチヨチ歩きで自由に動き回る。 ・つまむ、積む、引っ張るなど、手や指を使う遊びを楽しむ。 ・生活や遊びの中で身近な人に興味をもち、真似することを楽しむ。 ・水、砂、草花、紙などの身近な自然や素材に触れることを楽しむ。 ・喃語や一語文を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・興味のある絵本を繰り返し読んでもらうことを楽しむ。 ・歌やリズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながら保育する。 ・子どもが安心して自分の気持ちを表せるように、要求や欲求に応答的な触れ合いや言葉がけをすることを大切にする。 ・自分で食べようとする気持ちを大切に、スプーンですくえるよう手を添えたり、「おいしいね」「カミカミだね」など言葉がけをしたりして、楽しく食べられるようにする。 ・手や口の周りの汚れを拭き取り、清潔になる心地よさを知らせる。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 予防に努める。 ・1回の睡眠時間が長くなるので、生活のリズムを整え、気持ちよく過ごせるようにする。 ・安全な環境を整えるとともに、登る、はう、歩くなど発達に合わせた全身を使った遊びや、手指を使った遊びができるような魅力的な環境を設定する。 ・子どもが手に取る物は、大きさや色、手触りなどに配慮し、環境を構成する。 ・一語に込められた子どもの思いを捉え、言葉を補いながら、通じ合う喜びを感じられるようにする。 ・歌やリズム遊び、触れ合い遊びなどで遊べる環境を整え、保育者も一緒に楽しむ。

6期 0歳児 (1歳3か月～2歳未満)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自我が芽生え、自己主張が強くなり、一人でやりたがるが、思うようにならないと泣いたり怒ったりする。 ・手づかみやスプーン、コップを使って、こぼしながらも自分で食べられるようになってくる。 ・2回寝から1回寝になり、まとまった睡眠がとれるようになる。 ・体のバランスの取り方がうまくなり、一人で歩いたり、しゃがんだり、ぶら下がったり、両足跳びをしようとする。 ・「ママ」「ブーブー」など意味のある言葉を言ったり、簡単な言葉のやり取りをしたりすることができるようになる。 ・他の子どもに関心を示し、同じことをして遊んだり、物を取り合ったりする。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甘えや欲求を受け止め、毎日の生活を安定して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが言葉で伝わる喜びを味わいながら、保育者や他の子どもとの遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られ、見る、触れる、試すなど、身の回りにある物に関わり、全身を使って探索活動を楽しむ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活のリズムや状況、表情を把握し、受容的、応答的な関わりの中で安定感をもって生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした雰囲気の中で、スプーンを使って自分で食べることを楽しむ。 ・安全な環境の下で午睡をする。 ・十分に体を動かす楽しさを感じる。 ・つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指先を使った細かい動きを楽しむ。 ・生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもち、真似をすることを楽しむ。 ・発声や喃語を優しく受け止めてもらい、したいことやしてほしいことを言葉で伝える。 ・食べ物や動物、乗り物などの絵本を保育者と一緒に繰り返し見る。 ・草花や水、砂などの自然物に触れ、音、形、色、手触りなどに気付く。 ・歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの発育及び発達の状態や健康状態について適切に把握し、家庭との連携を密にしながら一人一人の子どもの状態に応じた保育をする。 ・自分で食べようとする気持ちを受け止め、必要に応じて介助する。 ・睡眠においては子どもから離れることなく、常に目を向け環境条件や寝具の掛け方などに注意する。また、仰向けに寝かせ、呼吸や顔色、嘔吐の有無など睡眠時の状態をきめ細かに観察・記録し、SIDS 発症予防に努める。 ・生活のリズムを整え、気持ちよく過ごせるようにする。 ・活動が十分楽しめるよう安全な環境を整えるとともに、起伏のある場所を歩いたり、よじ登ったり、はったり、全身を使って動ける遊びが活発にできる魅力的な環境構成を工夫する。 ・保育者の動きを真似て、一緒に体を動かして遊べるようにする。 ・伝えたい気持ち、話したい気持ちを大切に、ゆっくり優しく話しかけ、発語につなげる。 ・歌や手遊びに興味をもてるよう歌ったり踊ったりする活動を通して、楽しい気持ちを共有する。

1期 1歳児 (4月～5月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境への不安から泣き続けたり、保育者から離れられなかったりする子どもがいる。 ・保育者に甘えや欲求を表情で表し、受け止めてもらおうと、好きな玩具や絵本などで安心して遊び始める。 ・戸外に出ると気分が変わり、保育者と一緒に好きな場所で遊ぶ。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安、甘えや欲求を受け止め、安心して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、様々なものに興味や関心をもつ。 ・安心できる保育者と一緒に好きな遊びをする。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの状況や表情を見逃さずに把握し、受容的・応答的な関わりのなかで安心感をもって生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に食べさせてもらったり、自分なりに食べようとしたりする。 ・保育者に抱っこやおんぶ、体をさするなど、寄り添われながら安心して休息や睡眠をとる。 ・保育者と一緒に気に入った場所や好きな玩具で遊ぶことを楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との温かい触れ合いの中で信頼関係を築き、新しい環境に慣れるようにする。 ・子どもの気持ちを受容し、抱っこやおんぶなどのスキンシップを受とり、安心して過ごせるようにする。 ・家庭との連携に努めながら、無理のない園生活を送ることができるようになる。 ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べる喜びや楽しさを味わえるようにする。 ・一人一人の食事状況を把握し、食材を食べやすい大きさにしたり量を調節したりする。 ・おむつ交換は心地よく感じられるように、微笑みかけたり言葉かけをしたりしながら行う。 ・一人一人の生活のリズムを大切に、子守唄を歌ったり、体をさすったりして安心して入眠できるようにする。 ・一人一人が気に入ったものを見つけ、安心して遊べるよう誘いかけたり、手遊びをしたりして子どもとの触れ合いを大切にする。 ・保育者が一緒に遊びながら、子どもの気持ちに寄り添っていく。

2期 1歳児 (6月～8月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の子どもたちに興味が出てきて、自分から関わっていくことが多くなるが、うまく関われない子もいる。 ・暑さで疲れが出て、食欲が落ちる子がいる。 ・保育者に手伝ってもらいながら、衣類の着脱をやってみようとする子がいる。 ・自分の思いが通らないと表情で表したり「嫌」と言ったりする。 ・保育者と一緒に戸外で、水や砂などに触れながら遊ぶ。
<p>ねらい</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの健康状態を把握し、快適に過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の愛情豊かな関わりのもとで、簡単な身の回りのことを一緒にしようとする気持ちが芽生える。 ・したいことやして欲しいことを表情や仕草、簡単な言葉で表す。 ・身近な環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
<p>内容</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の体調を把握し、気持ちよく過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周囲の子どもとの安定した関係の中で、一緒に過ごす心地よさを感じる。 ・手づかみや、スプーンを使ったり手を添えてもらったりしながら、自分なりに食べようとする。 ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことに興味をもち、自分でやってみようとする。 ・保育者と一緒に他の子どもと関わり、簡単なやり取りを楽しむ。 ・したいことやしてほしいことを表情や指差し、身振り、簡単な言葉で伝える。 ・水、砂などに触れ、開放的な遊びを楽しむ。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの欲求や興味、関心を理解し、応答的に関わる中で安定して過ごせるようにする。 ・体調を崩しやすい時期なので、室内外の温度差や、湿度に留意し、風通しや水分補給、十分な休息、睡眠に配慮しながら健康に過ごせるようにする。 ・家庭との連携に努めながら、一人一人の体調を把握し、夏ならではの遊びを無理なく楽しめるようにする。 ・自分で食べたい気持ちを大切にしながら、スプーンを使うように声をかけたり、手を添えたりする。 ・着脱は、自分でしようとする気持ちを尊重し、見守り、必要に応じて手助けをする。 ・子どもの話そうとする気持ちを大切に受け止め、指差しや片言を言葉で返していく。 ・他の子どもとの関わりの中で、トラブル（玩具の取り合い、かみつき）が増えてくるので、子ども一人一人の状況をよく捉え、その思いを受け入れながら関わっていく。 ・皮膚の疾患など、夏の感染症予防に留意する。

3期 1歳児 (9月～12月)

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や他の子どもに親しみをもち、一緒に過ごそうとする。 ・自我が芽生え、強く自己主張することも多くなり、他の子どもとの間にぶつかり合いが増える。 ・体を動かして遊ぶことを好み、バランスをとって歩けるようになる。 ・身の回りのことに興味をもち、少しずつしてみようとする。 ・周囲の環境に興味をもち、指差しをしたり、簡単な言葉を使って伝えようとしたりする。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを受け止めたり、代弁したりして、自分の気持ちを安心して表せるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする気持ちをもつ。 ・いろいろな遊びを通して、全身を動かすことを楽しむ。 ・身振りや簡単な言葉で自分の思いを伝えようとする。 ・戸外や室内の環境を通し、木の実や落ち葉など、秋の自然に親しむ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを受け止めたり、代弁したりして、自分の気持ちを安心して表せるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぼしながらもスプーンを使ったり、保育者に手を添えてもらったりしながら喜んで食事をしようとする。 ・トイレで排泄しようとする。 ・保育者と一緒に簡単な衣類の着脱をしようとする。 ・歩く、走る、よじ登る、跳ぶなどの全身を使った運動遊びをして楽しむ。 ・身振りや仕草、簡単な言葉で自分の思いや要求を伝えようとする。 ・季節の歌や手遊び、体操など、保育者や他の子どもの真似をして楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕と日中の気温差があるので、体調の変化に気を付けながら、薄着で過ごせるようにする。 ・自己主張を受け止め、安心して要求を出せるようにする。また、その都度「〇〇したかったのね」と子どもの気持ちを受け止める。 ・自分で食べたい気持ちを大切にしながら、スプーンを使うように声をかけたり、手を添えたりする。 ・一人一人の排尿間隔を把握し、個別にトイレに誘い、便座に座ることに少しずつ慣れるようにする。 ・排泄は無理強いせず保育者が近くで見守り、排泄できた時は「出たね」と一緒に喜ぶ。 ・身の回りのことを自分でしようとするときには、見守ったり、できないところを援助したりして、自分でできた喜びに共感する。 ・いろいろな動きが経験できるように、遊具を用意したり、体を十分に動かして遊べるような場所を工夫したりする。 ・表情や言葉などで表した気持ちを丁寧に受け止め、応答的なやり取りをしていく。 ・自然に触れたり、見たりできる遊びや環境を整え、子どもたちが興味をもてるようにする。

4期 1歳児 (1月～3月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に時間はかかるが、自分で食べられるようになってくる。 ・保育者に手伝ってもらいながら、身の回りの簡単なことが、少しずつ自分でできるようになってくる。 ・保育者や他の子どもと簡単な言葉を使いながら、見立て遊びをすることを喜んでいる。
<p>ねらい</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを受け止めたり、代弁したりして、安心して過ごせるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの簡単なことを、保育者に声をかけてもらったり、手伝ってもらったりしながら自分でしようとする。 ・保育者や他の子どもと簡単な言葉のやり取りをしたり、同じ遊びをしたりしながら、一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ・絵本や玩具などに興味をもって、それらを使った遊びを楽しむ。 ・雪や氷などの冬の自然に触れる。
<p>内容</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを受け止めたり、代弁したりして、自分の気持ちを安心して表せるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぼしながらもスプーンを使って喜んで食事をする。 ・トイレで排泄しようとする。 ・簡単な衣類の着脱を自分でしようとする。 ・見立て遊びの中で、保育者や他の子どもとの簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・興味がある絵本を保育者と一緒に見ながら、言葉の繰り返しを楽しむ。 ・好きな歌を歌ったり、手遊びをしたり、リズム遊びを楽しんだりする。 ・雪や氷を見たり触ったりして遊ぶ。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の温度を調節し、換気を定期的に行うとともに、家庭との連携に努め、子どもの体調の変化に気を付ける。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しむとともに、よく噛むことも知らせていく。 ・着脱や排泄を一人一人の発達に合わせて誘いかけ、自分でできた喜びが感じられるように褒めたり認めたりする。 ・保育者が仲立ちとなり、簡単な見立て遊びを楽しめるようにする。 ・他の子どもとうまく関わりがもてない時は、子どもの気持ちをしっかり受け止めて、関わり方を伝えていく。 ・保育者と一緒に絵本を見ながら、絵本の内容を動作や言葉で表したり、歌を歌ったりして楽しめるようにする。 ・身近な自然に興味をもって関われるように、感触や冷たさを保育者が言葉で表現したり、子どもの気付きや喜びに共感したりする。

1期 2歳児 (4月～5月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に対する不安や緊張があり、戸惑う様子が見られる。 ・自分の要求を言葉で十分伝えられずにトラブルになることがある。 ・自己主張が出てきて自分の思いを通そうとする。 ・新しい環境に慣れるにつれ、好きな遊びを見つけて自分から遊び出す子もいるが、保育者の声かけが必要な子もいる。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、情緒の安定を図り、快適に生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境（保育室、保育者、友達など）に慣れ、安定して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分の好きなことをして遊ぶ。 ・戸外で体を動かしたり、自然に触れたりして遊ぶことを楽しむ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの気持ちを受け止め、寄り添って共感しながら子どもとの信頼関係を築いていく。 ・家庭と協力しながら子どもの姿に合わせた生活リズムがつくられるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室など新しい生活の場に慣れ、園生活のリズムを少しずつ身に付けていく。 ・他の子どもと一緒に食事をすることに慣れる。 ・保育者と一緒に行くことで、トイレに安心して行くことができる。 ・保育者にそばについてもらって安心して眠る。 ・保育者や他の子どもの名前を知り、少しずつ関心をもつ。 ・気に入った玩具や遊具で遊ぶ。 ・保育者と一緒に戸外で伸び伸びと体を動かしたり自然に触れたりして遊ぶ。 ・保育者と一緒に手遊びをしたり、歌ったりする。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者間の連携を取り合い、生活や遊びの中で子どもの表情や態度を読み取り、子どもの気持ちに寄り添って関わっていく。 ・保育者が笑顔で迎えたり、スキンシップを図ったりして温かい雰囲気をつくる。 ・新しい環境の中で、安心して遊べるように子どもと十分関わり、一人一人が落ち着く場所や好きな玩具を見付けられるようにする。 ・楽しく食事ができる雰囲気づくりをする。 ・トイレは明るく清潔にし、子どもが安心して行けるような環境の工夫をする。 ・午睡は、心が落ち着くような曲をかけたりそばについたりし、安心して眠れるようにする。 ・自分の持ち物を置く場所が分かるように、ロッカーや棚などに一人一人のマークを付けておく。 ・遊具は、興味をもちやすいような配置をし、遊びに入りやすいように誘ったり、きっかけづくりをしたりする。 ・戸外で開放的な気分が味わえるように、体を動かしたり草花や生き物に触れたりする機会をつくる。

2期 2歳児 (6月～8月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活の流れが分かるようになり、気持ちが安定してくる。 ・自分でしようとする気持ちと、やってもらいたい気持ちとがあり、思うようにいかないと、泣いたり怒ったりする。 ・保育者を仲立ちとして友達に関心をもつようになり、一緒に遊ぶ姿が見られる。 ・友達との間に、物の取り合いや自我のぶつかり合いが多くなる。 ・自分で見たり、経験したりしたことを、言葉や身振りで伝えようとする。 ・保育者の動きをまねて体を動かしたり、知っている歌を部分的に口ずさんだりする。
<p>ねらい</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、情緒の安定を図り、快適に生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・友達と関わりながら、夏の遊びを楽しむ。 ・保育者を仲立ちとして、生活に必要な言葉が少しずつ分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現する。
<p>内容</p>	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの甘え、不安、要求を丁寧に受け止めて、安心して過ごせるようにする。 ・子どもが気持ちを安心して出せるように、保育者は子どもの気持ちを汲み取った関わりをする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に楽しく食事をする中で、いろいろなものを食べてみようとする。 ・尿意を知らせたり、促されたりしてトイレに行き、排泄しようとする。 ・保育者に手伝ってもらいながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 ・つまむ、丸める、めくるなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・保育者に代弁してもらいながら、自分の気持ちを言葉で伝えたり遊びに必要な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達と一緒に水、砂、土などに触れて、いろいろな夏の遊びを楽しむ。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが気持ちを安心して出せるように、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにする。 ・身の回りのことを自分でしようとする気持ちを大切に、そばで見守ったり、励ましたりしながら意欲につなげる。 ・暑さで疲れやすい時期なので、一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や休息を十分に取る。 ・子どもの興味に合わせて、水、砂、土、粘土、紙などの素材を整え、十分に遊べるようにする。 ・友達とのぶつかり合いは、保育者がお互いの気持ちを汲み取り、受け止めながら相手の気持ちを知らせる。 ・ごっこ遊びに必要な遊具や用具を整え、保育者が仲立ちとなりながら、「貸して」「いいよ」「入れて」など、人との関わりに必要な言葉を使う機会をなるべく多くもつようにする。 ・子どもの動きや表現を受け止めながら、一緒に歌ったり、体を動かしたりして遊べるようにしていく。

3期 2歳児 (9月～12月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを、保育者に手伝ってもらいながら、自分でできることが多くなる。 ・走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど基本的な運動機能が発達してくる。 ・友達と関わる中で「貸して」「入れて」など、言葉のやり取りをして遊ぶようになる。 ・身近な自然に興味・関心をもち、それを使って遊ぶようになる。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、情緒の安定を図り、快適に生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でする。 ・保育者や友達と一緒に、戸外や自然の中で、自分から体を動かすことを楽しむ。 ・生活や遊びの中で、保育者や友達と言葉で表現する楽しさを感じる。 ・秋の自然物やいろいろな素材に触れる中で、様々なものに興味や関心をもつ。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたい気持ちを受け止め、できたことは十分にほめ、自分でできたことへの喜びを感じられるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる身の回りのことをする。 ・尿意を感じて自分から排泄しようとする。 ・走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使って喜んで遊ぶ。 ・気の合う友達と同じ遊びをする中で、共に過ごす心地よさを感じる。 ・秋の自然に触れたり、自然物を遊びに取り入れたりして遊ぶ。 ・保育者や友達とごっこ遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ・音楽やリズムに合わせた体の動きを保育者や友達と一緒に楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気候に合わせて衣服の調節をしながら、快適な生活ができるようにする。 ・行動範囲が広がるにつれ、動きが活発になってくるので、全身を使った遊びを工夫すると共に、けがや安全面に留意する。 ・子どもが自分でしようとしている時は、待つこと、見守ることを大切にし、自分でできた喜びを感じられるようにする。 ・子ども同士のぶつかり合いが多くなるので、保育者は互いの気持ちを受け止め、仲立ちをし、関わり方を伝えていくようにする。 ・保育者も一緒に遊び、体を動かす楽しさを十分に味わえるようにする。 ・自然に触れて遊べるよう環境を整え、子どもの驚きや発見など気付きを促すような関わりとなるようにする。 ・自然物を使ったごっこ遊びや、見立て遊びが楽しめるように工夫する。 ・子どもの好きな歌や簡単な曲を選び、様々な表現の仕方を受け止め、感性を豊かにする経験となるようにする。

4期 2歳児 (1月～3月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でできることが増えて自分ですることに自信をもつようになるが、その時の気分でしょうとしない時もある。 ・友達との関わりが活発になり、保育者や気の合う友達と一緒に、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しめるようになる。 ・生活や遊びを通して異年齢の子どもたちに対する関心が高まり、進級を楽しみにする姿も見られるようになる。
ねらい	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、情緒の安定を図り、快適に生活できるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な身の回りのことを、自分でできる嬉しさを感じる。 ・ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを通して、保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・冬の自然に触れ、戸外で保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・経験したこと、興味のあることを自分なりに表現しようとする。
内容	<p>【養護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら自分でできたことへの満足感を味わえるようにする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜んで食事をする中で、食べる楽しさを感じ進んで食べようとする。 ・自分で排泄の始末をしようとしたり、排泄後の手洗いをしようとしたりする。 ・食後は、顔や手の汚れに気付いて洗ったり拭いたりする。 ・鼻水が出たことに気づき、自分で拭こうとする。 ・保育者や友達との遊びや生活の中で順番や交替などがあることを知る。 ・生活や遊びの中での出来事を、保育者や友達と一緒にごっこ遊びに取り入れて遊ぶ。 ・冬の自然に触れて遊び、見たことや感じたことを保育者や友達に言葉で伝える。 ・音楽に合わせて体を動かしたり、楽器を使ったりして簡単なリズム遊びをする。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は、一人一人に合わせて励ましたり、具体的な声かけをしたり、手伝ったりして自分でできる喜びを感じられるようにする。 ・冬の保健衛生に留意し、感染症予防に努め、健康に過ごせるようにする。 ・絵本やごっこ遊びを通して、言葉を使う経験を豊かにしたり、友達との関わりを広げたりして遊ぶ機会を多くする。 ・幼児クラスと交流をもつなど、進級に向けて期待がもてるようにする。 ・生活や遊びの様々な体験を通してイメージの共有ができるように、素材や物などの環境を整えていく。

3 歳児～5 歳児
指 導 計 画

1期 3歳児 (4月～5月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親から離れるのが不安で泣く子ども、知っている子と遊ぶ子ども、自分のしたいように行動する子どもなど個人差が大きい。 ・ 身の回りの始末を自分ですることに慣れず、周りの大人にしてもらうのを待っている。 ・ したいこと、してほしいこと、思ったことなどを言葉でうまく表現できないため、泣いたり、怒ったりして態度や表情で訴えようとする。 ・ 気に入ったおもちゃがあると遊べるが長続きしない。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園での生活の流れが大体分かり、安心して過ごす。 ・ 保育者に親しみをもつ。 ・ 好きな場所や遊具で、自分のしたい遊びを楽しむ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者と一緒に過ごす中で、不安な気持ちを和らげる。 ・ 保育者がしていることを見たり、一緒に行ったりして、園での生活の仕方を知る。 ・ 保育者に名前を呼ばれたり声をかけられたりする嬉しさを感じる。 ・ 気に入った遊具や玩具を見つけて遊ぶ。 ・ 絵本、紙芝居、手遊びなどを喜んで見たり聞いたりする。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具や玩具は、子どもが親しんでいる物を用意し、安心して遊べるようにする。 ・ 保育者が子どもにとって安心して頼れる存在になるよう、一人一人の子どもと丁寧に関わり、信頼関係を築けるようにする。 ・ 子どもの「してほしい」という気持ちに十分応じるようにし、安心して過ごせるようにする。 ・ 生活の仕方が徐々に分かっていくように、自分だけでは難しいところは保育者が手伝い、できた時には共に喜んだり、励ましたりする。 ・ 遊具は、友達と同じ物を使えるように、いくつか用意し、状況に応じてすぐに出せるようにする。 ・ 繰り返しのあるものや知っているキャラクターなどの絵本や紙芝居、手遊びを用意する。

2期 3歳児 (6月～8月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者に親しみをもち、安心して遊べるようになる。 ・ 生活の流れが分かるようになり、個人差はあるものの、身の回りのことを自分からしようとする気持ちが出てくる。 ・ 園生活に慣れ、園の遊具や玩具に興味を示し、自分の好きな遊びを楽しみ始める。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園での生活の仕方が分かり、手伝ってもらいながら自分でもやってみようとする。 ・ 保育者や友達に親しみをもち、一緒にいろいろな遊びをする。 ・ 身近な自然に親しみ、触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な身の回りの始末、食事や排泄の仕方が分かり、自分でしようとする。 ・ 遊具や用具などに興味をもって遊び、安全な使い方を知る。 ・ 気に入った遊びを保育者や友達と一緒に楽しむ。 ・ 絵本や、紙芝居などを、見たり聞いたりする楽しさを味わう。 ・ 身近な動植物を見たり、触れたりして親しみをもつ。 ・ 砂や泥、水の感触を全身で味わって遊ぶ。 ・ 音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりして、その心地よさを味わう。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの始末は、一人一人に応じて援助し、少しずつ習慣を身に付けられるようにする。 ・ 保育者が一緒に遊ぶ中で、一人一人の気持ちを十分受け止め、安心して遊べるようにするとともに、友達にも目が向けられるような働きかけをする。 ・ 気に入った遊びをすぐに遊び出せるような環境を用意する。 ・ 保育者が一緒に遊ぶ中で、遊具や用具の安全な使い方、扱い方をその場で伝えていく。 ・ 絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、いろいろな言葉に親しめるようにする。 ・ 身近な自然に触れながら虫捕りや草花摘みなど、楽しい体験ができるようにする。 ・ 一人一人が安心して水や泥で遊ぶことができるように、道具や場を用意する。 ・ リズムに乗りやすい曲や親しみのある曲を取り入れながら、保育者や友達と一緒に踊ったり動いたりする中で楽しさを共有する。

3期 3歳児 (9月～12月)

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの始末や排泄などの基本的な生活習慣を自分でしようとするが、まだ個人差が大きい。 ・走る、跳ぶ、登るなど、体を動かして遊ぶことを喜ぶようになる。 ・周りの友達にも少しずつ関心を持ち、話しかけたり、同じ遊びをしたりするようになるが、遊具の取り合いなどのトラブルも多くなる。 ・身近な自然に興味をもって関わろうとする。 ・言葉が豊かになり、遊びや生活の中で必要な言葉が使えるようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもち、一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の思いを出していろいろな遊びをする。 ・保育者や友達と一緒に身近な自然を見たり触れたりして、遊びに取り入れようとする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりに伴う生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。 ・友達や保育者と走ったり、思い切り体を動かしたりする心地よさを感じる。 ・同じ場にいる友達と一緒に話したり、遊んだりすることを楽しむ。 ・音楽やお話に親しみ、表現することを楽しむ。 ・木の実や落ち葉などを集め、それらを使っていろいろな遊びをする。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・話したいという気持ちを受け止め、じっくり話を聞く。 ・友達と遊ぶ喜びに共感しながら、お互いの思いを伝え合っているように仲立ちをする。 ・保育者も一緒に走ったり、踊ったりして、思い切り体を動かして楽しく遊ぶようにする。 ・全身を使う遊びに興味をもつようになるので、活動的な遊びや運動ができるような遊具や用具の準備をする。 ・木の実や落ち葉などを使って遊ぶことに興味をもてるように、保育者がそれらを使ってつくった物を見せたり、子どもと一緒につくったりする。 ・自分の思いを自由に表現したり、友達と一緒に見立てて遊んだりできるような素材を用意しておく。 ・行事をきっかけとし、異年齢の真似をしたり繰り返し楽しんだりして遊べるように、必要な物を用意しておく。

4期 3歳児 (1月～3月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。 ・気の合う友達が少しずつでき、一緒に遊ぶようになるが、自分の思いが先行し、トラブルも多く見られる。 ・保育者の仲立ちの下、友達と一緒に遊ぶと楽しいという気持ちが出てくる。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びに興味をもち、保育者や気の合う友達と関わることを楽しむ。 ・進級への喜びと期待をもち、生活したり遊んだりする。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びを通して、様々なきまりがあることに気付く。 ・気の合う友達と一緒に体を動かしたり、ごっこ遊びをしたりして楽しむ。 ・息の白さや氷など冬の自然を見たり触れたり、体で感じたりする。 ・自分の思ったことやしたいことを言葉で表現する。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしようとしている姿を温かく見守りながら、必要に応じて援助をし、できた満足感が味わえるようにする。 ・保育者が一緒に遊ぶ中で、友達とのつながりをもてるよう仲立ちをしていく。 ・トラブルが生じたときは、双方の言い分をしっかりと聞く中で、友達の思いに気付いていけるようにする。 ・子どもの気持ちを大切に、場面をとらえて認めたり、できるようになったことを共に喜んだりして、自信につなげていく。 ・自然に触れて遊ぶ中で、子どもの発見・感動などに共感する。 ・子どもの話すことをじっくり聞いたり、話しやすい雰囲気をつくったりして、自分の思いを言葉で伝えられるようにしていく。 ・ごっこ遊びでは、身に付ける物や見立てられる物など、子どもがイメージを広げられるような遊具や素材を用意する。

1期 4歳児 (4月～5月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進級により新しい生活に楽しみを感じつつも、緊張感や不安感をもつ子どももいる。 ・基本的な生活習慣はおおむね身に付き、できることは自分でしようとする。 ・保育者といると安心し、好きな遊びや場所、気の合う友達を見付けて遊ぶ。 ・新入園児の世話をしようとする子どもがいる。 ・身近な動植物に関心をもって関わろうとする。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを見付けて、保育者や友達と一緒に、遊ぶ楽しさを味わう。 ・新しい環境に慣れ、園生活の流れや方法を知り、身の回りのことを進んでしようとする。 ・身近な自然や小動物に親しみ、興味をもつ。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の始末や排泄、食事等、新しいクラスの生活の仕方や用具の安全な使い方を知って遊ぶ。 ・保育者や友達に親しみをもち、言葉のやり取りや好きな遊びを楽しむ。 ・してほしいことや困ったことなど保育者にいろいろな方法で伝えようとする。 ・保育者の話や絵本、紙芝居など内容や物語に興味をもち、喜んで見たり、聞いたりする。 ・草花、小動物、砂など自然に触れて遊ぶ楽しさを感じる。 ・歌を歌ったり、体を動かしたりする中で、友達と触れ合う楽しさを味わう。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進級した嬉しさや戸惑いなど、一人一人の気持ちを温かく受け止め、触れ合う中で安心感がもてるようにする。 ・子どもが要求していることや困っている姿を見落とさないようにし、必要な援助をする。 ・保育者の周りに集まって絵本を見たり、手遊びをしたりして友達と同じ場で同じことをする楽しさを味わえるようにする。 ・今まで親しんできた遊びや遊具などを用意し、保育者も一緒に遊ぶことで楽しさを感じられるようにする。 ・一人一人が落ち着ける場を確保し、少人数で安心して遊べるコーナーを用意する。 ・草花の様子の変化や虫や小動物の動きなど子どもの気付きを丁寧に聞いたり、遊びに取り入れたりすることで、春の自然物に親しみがもてるようにする。 ・自分から進んで身支度をしようとする姿を認めたり、戸惑っている子には、一緒に行ったりすることで安心して取り組めるようにする。 ・所持品や玩具などの置き場所には絵やマークなどを利用し、子どもが自分で見て取り組みやすいようにする。

2期 4歳児 (6月～8月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れが分かり、身の回りの支度や片付けなど自分でしようとする。 ・友達に親しみをもって関わるようになり、同じ場所で遊ぶことを喜ぶ。 ・友達との関わり方が分からなかったり自分の気持ちが伝えられなかったりし、トラブルが起こりやすい。 ・草花や小動物に親しみ、見たり触れたりする姿が見られる。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わる楽しさが分かり一緒に遊ぼうとする。 ・身近な自然に触れて、夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の生活の仕方を知り、健康や安全に気を付けて過ごす。 ・全身を使って遊び開放感を味わう。 ・保育者や友達と遊ぶ中で、自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。 ・友達と関わり合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・園庭の草花や小動物など、身近な自然に触れて遊ぶ。 ・砂や水、泥などの感触を味わいながら、夏の遊びを十分に楽しむ。 ・身近にある素材や用具を使って、遊びに必要な物をかいたりつくったりする。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期の衛生面に留意し、快適に生活できるようにする。 ・友達との接し方や遊びへの参加の仕方が分かるように、場面に応じて保育者が仲立ちする。 ・遊びの取り組みへの個人差に配慮し、泥んこ遊びや水遊びなどの開放的な遊びを十分にできるようにする。 ・園庭の栽培物や小動物に興味をもてるように、保育者と一緒に世話をしたり、触れたりする。 ・自然の不思議さや美しさを感じる心が育つように、驚きや感動に共感する。 ・友達と一緒にかいたりつくったりする中で、いろいろな素材や用具に触れ興味を広げられるようにする。

3期 4歳児 (9月～12月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使って活発に遊ぶようになる。 ・気の合う友達とのつながりが深まり、共通の興味やイメージをもって遊ぶようになる。 ・自分の思いや要求を言葉で伝える中で、主張が強くなりトラブルが起こることがある。 ・身近な動植物に関心を持ち、探したり集めたりする。 ・踊ったり、楽器を鳴らしたりすることに興味を持ち、友達と一緒に遊ぶようになる。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動きを試しながら、友達と一緒に十分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の思いやイメージを動きや言葉で伝え友達と関わって遊ぶ楽しさを味わい、自分のイメージに合ったいろいろな素材を使ってつくる楽しさを味わう。 ・身近な自然物や季節の変化に興味をもって遊びに取り入れる。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と体を動かす遊びやルールのある遊びを楽しむ。 ・思ったことや考えたことを伝えたり、相手の思いを聞いたりする中で、友達との関わりを楽しむ。 ・いろいろな素材を使ってつくったりかいたりする中で自分のイメージに合わせて、工夫する。 ・夏から秋、秋から冬の自然の変化に気付き、自然物を見たり触れたりして使って遊ぶことを楽しむ。 ・歌を歌ったりリズムに合わせて踊ったりして表現することを楽しむ。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かして遊ぶ気持ちよさが感じられるように場をつくったり、用具や遊具を準備したりする。 ・保育者も一緒に遊び、ルールのある遊びを友達や集団で一緒にする楽しさを味わえるようにする。 ・友達とのやりとりを通して、自分の思いを言葉で表せるようにするとともに相手の気持ちにも気付くことができるようにする。 ・友達と話し合って遊びを進めていくことができるように、子どもの考えを引き出し、遊びを展開するおもしろさを味わえるようにする。 ・一人一人のイメージや工夫が活かされるように、用具、材料を用意する。 ・季節の移り変わりの中で、自然事象に関心をもたせたり、木の実や落ち葉など自然物を遊びに使ったりして、遊びが広がるようにしていく。

4期 4歳児 (1月～3月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友達関係が深まり、遊びの中で自分なりに工夫しようとする気持ちが出てくる。 ・ルールのある遊びや集団で遊ぶ楽しさが分かり、友達と継続して遊ぶようになる。 ・年長組の遊びや行動を見て、自分もやってみようとしたり、憧れの気持ちをもったりする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを繰り返し楽しみながら、友達と一緒に試したり考えたりして遊ぶ。 ・生活や遊びに進んで取り組み、進級することへの意欲や期待をもつ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とイメージや考えを共有し、互いに思いを出し合いながら遊びを進める。 ・遊びに必要なものを工夫してかいたりつくったりし、つくったものを使って遊ぶ。 ・身の回りのことを進んで行い、いろいろな活動に自信をもって取り組む。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的や興味をもつ友達の考えが伝わるように必要に応じて仲立ちし、自分たちで遊びを展開する楽しさを感じられるようにする。 ・友達との関わりの中で、一人一人の思いを認めたり、取り入れたりするように援助し、それぞれの子どもが安心して自己発揮できるようにする。 ・考えたことやイメージしたものを表現するために必要な材料や用具など、子どもが選んで使えるように用意する。 ・一人一人の思いや表現の仕方を認め合える雰囲気づくりをし、自信と意欲がもてるようにする。 ・遊びや生活、当番活動など、年長児と交流しながら教えてもらう場を設け、年長児への憧れや進級することへの期待をもてるようにする。

1期 5歳児 (4月～5月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長組になった喜びを感じるとともに、新しい環境に緊張する姿も見られる。 ・気の合った友達と一緒に遊ぶ。 ・身近な動植物に関心を持ち、保育者や友達と一緒に図鑑で調べたり世話をしたりする。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長組としての意識を持ち、保育者や友達と一緒に生活を進める楽しさを味わう。 ・春から初夏の身近な自然物に興味をもって関わり、美しさや季節の変化に気付く。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長組になった喜びを感じながら、身の回りのことや当番活動に進んで取り組み、自分たちで生活を進めようとする。 ・保育者や気の合う友達に親しみ、自分の考えを伝えたり相手の思いを聞いたりする。 ・身近な自然物に触れる中で、変化に気付いたり発見を楽しんだりする。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者も一緒に遊ぶ中で、一人一人の心の動きや活動を見守り安定して生活ができるようにする。 ・新しい遊具や用具の安全な使い方を子どもと一緒に考え、自分たちで約束を守って使えるようにしていく。 ・気の合う友達や同じ活動をする友達と遊ぶ中で、一人一人の力が発揮できるよう援助する。 ・子どもの考えを聞きながら、一緒に生活の場を整える。 ・年長組になった喜びを受け止め、年下の子どもに親しみをもてるよう関わる機会をつくっていく。 ・栽培物や飼育物に親しみ、大切に世話をしようとする気持ちをもてるようにする。

2期 5歳児 (6月～8月)

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と遊びを考えたり、話し合ったりして遊ぶようになる。 ・遊びに対する考え方の違いから、ぶつかり合いが多くなる。 ・水や砂を使った遊びや、グループでの遊びが盛んになり、ダイナミックに遊ぶことを喜ぶようになる。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶ中で、思ったことを伝えたり認め合ったりして、関わりを深める。 ・身近な環境や事象に触れ、見たり試したり考えたりして遊ぶ。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝えたり相手の思いを聞いたりして遊びを進めることを楽しむ。 ・年下の子との触れ合いを通して親しみの気持ちをもつ。 ・砂・泥・水などに触れる心地よさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 ・身近な環境に触れて遊ぶ中で、疑問に思ったことを試したり調べたりする。 ・栽培物の成長に関心をもち、収穫を楽しんだり、食べる喜びを味わったりする。
<p>環境構成と保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びやごっこ遊びなどの楽しい活動を通して、皆で取り組む楽しさやクラスの友達とつながりをもつ喜びを感じられるようにする。 ・身近な材料や用具を自由に使えるように整えるとともに、つくった物で遊びが盛り上がるよう働きかける。 ・水遊びや砂遊びに適した素材を用意し、工夫して遊べるようにする。 ・子どもと一緒に畑や花壇の手入れをしたり、小動物の世話や飼育をしたりする中で成長の変化に興味をもてるよう、子どもの発見や驚きを大切に受け止めていく。 ・異年齢での遊びが充実できるよう保育者も仲間に入り、一緒に遊ぶ楽しさを共有していく。

3期 5歳児 (9月～12月)	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・力いっぱい体を動かすことを楽しみ、自分なりの目的をもって頑張ろうとする気持ちが高まっている。 ・共通の目的をもって、友達と考えたり工夫したりすることを楽しむようになる。 ・季節の移り変わりに気付き、自然物を使って工夫して遊ぶようになる。 ・自分の思ったことや感じたこと、考えたことを、言葉や動きなどで表現するようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力を十分に発揮して運動や遊びに取り組む。 ・共通の目的をもって、友達と一緒に試したり工夫したりして、活動に取り組む。 ・身近な自然や地域社会に触れ、感動したり取り入れて遊んだりする。 ・自分たちで考えたことを遊びの中で表現する楽しさを味わう。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動に興味をもち、積極的に体を動かしたり自分なりに目的をもって挑戦したりする。 ・共通の目的に向かって、友達と考えやイメージを出し合ったり気持ちを受け入れ合ったりして遊びを進める。 ・身近な自然の美しさや季節の移り変わりに気付いたり、自然物を使って工夫して遊んだりする。 ・公共の場や施設、様々な人々と関わる中で、地域に親しみをもつ。 ・考えたことや感じたことを相手に分かるように言葉で伝える。 ・絵本や物語、いろいろな音楽などに親しみ、遊びの中でイメージを膨らませたり工夫したりして表現することを楽しむ。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的に向かって仲間と力を合わせようとする姿を認め、保育者も一緒に考えたり共感したりする。 ・一人一人のよさが十分発揮できるようにし、その子のよさを互いに認め合えるような雰囲気づくりをする。 ・友達に分かるように自分の考えやイメージを伝えている姿を認め、一緒に遊びを進めていく楽しさやつながりを感じられるようにする。 ・自分たちで相談し協力しながら、生活や遊びが楽しめるよう、場や時間を工夫する。 ・気温の変化や風、水の冷たさ、木々の変容などから、秋から冬にかけて季節の変わっていく様子が身近に感じられるようにする。 ・自然物などを使った遊びを十分体験しながら、数、量、図形などにも関心がもてるようにする。 ・園内外の様々な環境に関わる機会を設け、社会とのつながりを感じられるようにする。

4期 5歳児 (1月～3月)

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの遊びの楽しさがクラス全体に広がって、遊びが深まる。 ・相手の話を聞いたり、友達と同じ活動をしたりする時間が長くなる。 ・自信をもって園生活を送り、一年生になることへの期待をもち、意欲的に行動する。 ・年中少児や友達に対する思いやりの気持ちが見られる。 ・身近にある文字や数量に関心をもち、使おうとする。 ・身近な自然事象に関心をもち、自ら積極的に関わるようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のもっている力を発揮して、協力して遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 ・身近な自然事象を取り入れて遊び、好奇心をもって探求することのおもしろさを味わう。 ・感じたことや思ったことを伝え合い、友達と心が通じ合う嬉しさを感じる。 ・一年生になる喜びと期待をもち、園生活を十分楽しむ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に遊びに取り組み、自信をもって行動する。 ・友達とイメージを共有し、共通の目的の中で役割をもって積極的に遊ぶ。 ・文字や数量などに関心をもち取り入れて遊ぶ。 ・自分の考えを言葉で伝えたり、友達の話を聞いたりする。 ・身近な事象に関心をもち、物の性質や仕組み、変化に気づき、試行錯誤しながら遊びに取り入れる。
環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れを考えて遊びや活動に取り組めるように、行事や活動の予定を知らせ、見通しがもてるようにする。 ・周りの状況や友達の気持ちを考え、自分で判断して行動する姿を見守ったり、必要に応じて声をかけたりする。 ・自分のできることを友達や周りの人に教えたり、仲間で相談したりできるようにし、自分たちで遊びを進めていけるようにする。 ・ゲームや正月遊びなどを通して、生活の中に文字や数量を取り入れる楽しさが味わえるようにする。 ・一人一人の発想を大切にし、それぞれの持ち味が活かされるよう配慮する。 ・入学に対する喜びと期待をもてるよう、一人一人の成長を認め、自信をもって行動できるように配慮する。 ・自然事象への関心が深まるように、調べたり試したりする姿を大切にし、十分に追及する場を保障する。